



町章

昭和45年10月3日制定。「竜」の字をデザイン化したもので、平和のシンボルであるハトを形どり、円に包まれた三翼は町民の団結を、また円外に出た翼は未来にはばたく龍郷町の飛躍発展を表象している。



町花：ヒカンザクラ



町木：リュウキュウマツ

龍郷町へのアクセス

- ▼龍郷町役場
〒894-0192
鹿児島県大島郡龍郷町浦110番地
☎0997(62)3111 (代表)
FAX0997(62)2535
- ▼奄美大島へのアクセス
 - 福岡空港→奄美空港まで約80分
 - 鹿児島空港→奄美空港まで約60分
- ▼島内のアクセス
奄美空港から国道58号線より車で約20分

龍郷町

たつごうちょう

人口	6,242人
男性	3,003人
女性	3,239人
世帯	2,976世帯
面積	8,207 [㍎]

(11月末現在)



問い合わせ先 市長公室国際交流係 ☎0968(25)7252

「奄美自然観察の森」展望所から見た龍郷湾

友好都市締結記念特集

輝く人々と

固有の自然が織りなす

癒しのまち

その名は—

龍郷町

10月27日、菊池市と龍郷町が友好都市宣言書に調印しました。西郷隆盛を縁として始まった交流は、人と人をつなぎ、まちとまちをつなぎました。新たな交流のスタートを機に、友好都市となった龍郷町の魅力に迫ります。

自然と共に生きるまち

鹿児島本土と沖縄本島のほぼ中間の洋上に浮かぶ鹿児島県奄美大島。龍郷町はその島の北部に位置し、東シナ海と太平洋に囲まれたまちです。気候は亜熱帯の海洋性気候で、年平均気温はおよそ21度。降水量は年間3000mmに近く、湿度が年平均75%と高いのが特徴です。この特異な気候により、独自の進化を遂げてきた自然や奄美固有の動植物が育まれています。

その貴重な動植物にふれあうことができる「奄美自然観察の森」には、奄美の大自然を満喫しようと年間をとおして多くの観光客が訪れます。野鳥の宝庫としても知られ、多くの野鳥ファンも足を運んでいます。そして奄美といえは美しい海。龍郷町には白い

砂浜、エメラルドグリーンの海とサンゴ礁があり、そこには色とりどりの熱帯魚が泳いでいます。

サーフィンに適した波が来ることで知られる海岸は、全国のサーファーご用達の人気スポット。龍郷町の手広海岸では、サーフィンのワールドカップともいわれる「国際プロサーフィン大会」も開催され、世界各国から多くのマリンスポーツファンが訪れています。

伝統息づく特産品

有名な特産品として、「黒糖焼酎」と「大島紬」があります。黒糖焼酎は、奄美大島諸島の蔵元でしか製造を認可されておらず、黒糖を原料とした焼酎です。モンドセレクション2012で最高金賞、

ベルギーで行われる味覚賞「ITQI」（国際味覚審査機構）で優秀味覚賞を受賞するなど、世界的にも評価されています。その特徴はくせがなく、飲みやすく、しかも糖分がなく低カロリー。健康を気にする人や女性にも人気を博しています。



大島紬



黒糖焼酎



1. 調印後に握手を交わす福村市長と川畑町長 2. 固い握手を交わす4人
(左から碩町議会議長、川畑町長、福村市長、山瀬市議会議長) 3. 色鮮やかな鉢植えも式典に花を添えた 4.7.8. オープニングの六調太鼓 5. 万歳三唱の音頭をとる坂井市議會議員 6. 両市町の首長と議員で記念撮影

調印にかける それぞれの思い

多くの人のちからによって生まれた友好都市。この締結が両市町にもたらす未来とは。二人の首長に調印にかける思いを聞きました。

友好都市宣言調印式

友好都市宣言調印式は10月27日、龍郷町体育文化センター、龍郷町体育文化センター。本市からは福村市長をはじめ市議會議員など25人が出席。会場には多くの龍郷町の皆さんが拍手と笑顔で迎えてくれました。

オープニングでは地元住民の皆さんが六調太鼓を披露。三味線と太鼓の軽快なリズムに合わせて子どもが踊り始めると、会場は大いに盛り上がりを見せました。

重ねてきた。今後はこの友好関係をさらに深め、菊池市と龍郷町の発展のために友好の輪を広げていきたい」とあいさつ。福村市長は「友好都市締結という種まきができたことは大変意義深くめでたいこと。この種を末永く手を携えて育てていかなければならない」と述べました。

続けて碩龍弘町議會議長と山瀬義也市議會議長があいさつ。宣言文が朗読された後、福村市長と川畑町長が文書に署名しました。坂井正次市議會議員の万歳三唱で式典を締めくくり、最後は固い握手を交わして末永い交流を誓いました。



幅広い分野で連携を

Interview 川畑宏友 龍郷町長 Koyu Kawabata



菊 池市の皆さんの協力です。無事に式典を終えることができうれしく思います。久しぶりにお会いしました。が、長い交流のおかげもありとても親しみを感じています。菊池市には何度も足を運びましたので、いろんな意味で近くに感じていますね。

菊池市は面積が広く経済的に豊かだろうと思います。特に畜産業は盛んで、産出額は西日本有数と聞きました。昨年菊池市で食べた牛肉の味は今でも覚えています。本町の農業はサトウキビが中心ですが、畜産業も増やしていけたらいいですね。

菊池市にはほかに七城の米やメロンなど魅力的な特産

品がたくさんあります。七城の米はこちらでも有名で、町の祭りで販売されるとすぐに売り切れてしまうほど人気があります。友好都市になったことで、さらに人気が高まるのではないのでしょうか。

菊池市とはこれまで以上に交流を深め、観光、文化、教育など幅広い分野で連携を図りたいと思っています。学校の修学旅行など、まずは青少年の交流などから始めたいですね。

龍郷町は自然豊かな「癒しのまち」です。市民の皆さんには気軽に遊びにきていただき、心の充電をもらえたらと思います。

友好の種を末永く育てたい

Interview 福村三男 菊池市長 Mitsuo Fukumura



龍 郷町と友好都市を結ぶことができ、大変うれしく思います。平成18年5月に初めて龍郷町を訪れて以来、議会や市民団体の皆さんが交流を続けてきました。年数は短いかもしれませんが、中身の濃い交流が重ねられてきたことが今日の調印に結びついたのだと思います。

私自身も龍郷町にはこれまで6回ほど訪れています。エメラルドグリーンの海は本当にすばらしいですね。海の幸もおいしいですし、何より住んでいる人々があたたかい。「癒しのまち」と言われるとおり、ここに来ると本当に命が洗われた気持ちになります。

本市には海は、龍郷町と同様に豊かな自然に恵まれています。名水百選や日本の滝百選に認定された菊池渓谷がありますし、日本の名湯百選となった菊池温泉もあります。菊池市と龍郷町、それぞれ違った持ち味があると思います。お互いの持ち味を参考にしたり取り入れたりしていくことで、将来の発展につながるのではないのでしょうか。

まずは子どもたちの交流を中心に進めていきたいと考えています。それが大人の交流にもつながりますし、末永く友好の種を育んでいくことにつながると 생각합니다。

菊池源吾のルーツを学ぶ

Roots of Gengo Kikuchi



国立国会図書館蔵

菊池源吾 (西郷隆盛) (1828年~1877年)

西郷家は、菊池氏初代則隆の子である政隆が七城町西郷地区に増永城を築き居を構え、西郷太郎と称したことから始まります。西郷家 26 代の昌隆が鹿児島島の島津氏に仕え、鹿児島に居住。32 代目の子孫が西郷隆盛です。西郷は安政の大獄で、勤皇僧である月照と共に鹿児島島の錦江湾に身を投じましたが、奇跡的に助かりました。鹿児島島の島津藩 27 代斉興の計らいにより、幕府に対しては死亡したと報告され、奄美大島の龍郷町に潜伏を命じられます。1859 年、龍郷町に到着した西郷は、「吾の源は菊池にあり」として「菊池源吾」と名前を変えました。

龍郷町では大島の名門郷士格龍家の離れ家に居住。最初は島暮らしに馴染めずにはいましたが、徐々に島民と打ち解けあっていきます。その後、龍家の子孫である愛加那(本名・龍愛子)と結婚。1861 年に長男菊次郎、翌年には長女菊草(後の菊子)が誕生しましたが、1862 年 1 月 14 日に召喚状を受け、鹿児島へ帰りました。龍郷町で暮らした 3 年余りを「菊池源吾」と名乗り、子どもたちに「菊」の字を付けたことは、自分が菊池一族の末裔であることを意識してのことであったといわれています。



西郷隆盛公の子孫
西郷隆子 さん

ご縁を絶やさず大切に
昔の人物や歴史からずっとつながっているなんてすごいですよね。友好都市を結ぶ今日、この瞬間この場所に遭遇していることがすごく不思議です。せっかくなので、ご縁なので、絶やさず大切にしていきたいです。



1,2. 西郷が愛加那と暮らした住居跡 3. 交流会は西郷の島での逸話などで盛り上がった 4. 西郷 2 度目の潜居地 5. 龍家・愛加那の墓

まちをつなぐ人々の思い

龍郷町との交流が始まるきっかけとなった人物。それは、幕末から明治維新を駆け抜けた政治家・西郷隆盛公。西郷は龍郷町で暮らした 3 年間、自らを「菊池源吾」と名乗っていました。西郷隆盛と菊池源吾。二つの名前が生んだ縁を育み、まちをつないだ人たちがいます。

実を結んだ交流

平成 19 年に開催された「菊池源吾を語るシンポジウム in 菊池」をきっかけに、菊池市で「菊池源吾に学ぶ会」が発足しました。西郷の人間性や生き方を学び、菊池市との歴史の関わりについて見聞を広めようと活動しています。

龍郷町にも、西郷について学ぶ「西郷塾」があります。奄美大島で過ごした西郷の逸話や、妻の愛加那との暮らしを学びながら、町の歴史についても学んでいます。平成 18 年に菊池市の訪問団が訪れたことをきっかけに公民館講座としてスタート。現在は肩を並べて気軽に話ができるよう、私塾に形を変えて活動しています。西郷塾事務局長の安田さんは、「菊池の皆さんが来てくださったおかげで、地元でも活動しよう」と立ち上げました」と振り返ります。

調印式には会員と塾生の皆さんも参加し、友好都市の締結を見守りました。菊池源吾の会会長の園木さんは、「こ

Yoji Sonoki



菊池源吾に学ぶ会
園木洋二 会長

れまで続けてきた交流が実を結び、友好都市の締結につながったことはとてもうれし」と喜びを語ります。「西郷隆盛」と「菊池源吾」。二つの名前が生んだ縁を育んできた住民同士の交流が、友好都市締結という一つの形となりました。

西郷隆盛という人

「人間らしく家族人らしく島でのびのびと過ごしていたころの西郷を描きたい」と安田さんは思いを語ります。西郷は島に来た当初、島民のことを身分の低い者と見下していました。島の生活に馴染めずにはいた西郷ですが、結婚して子どもができる、「自分も島人になった」と手紙を書くほど心境に変化が訪れます。

島民と一緒にイノシシ狩りに行ったときに鉄砲で仕留める役目を果たせず、お詫びに豚肉を振る舞ったという逸話もありました。西郷が島の生活に慣れ親しんでいた様子がかがいが知ることができません。

西郷のもとに召喚状が届き鹿児島島に帰ると、明治維新を達成する活躍の時代に入っていきます。安田さんは、「奄美での 3 年間で西郷の人間づくりができたのだと思います。それがなければ、その後の活躍はなかったんじゃないでしょうか」と話します。園木さんも、「西郷の教えは現代の私たちにも通じるものがたくさんあります。それがあっても島での暮らしがあったからでは」と続け、西郷にとって奄美が人格形成のうえで大事な場所であったことを確認しました。

育まれる緑

これからも交流を根強く続けていきたいと二人は口をそろえます。そしてお互いの地



西郷塾
安田壮平 事務局長

友好都市という形をつくった人々の縁は、お互いのまちのために今も大きく育まれ、新たな縁を生み出そうとしています。

鶏肉の甘辛煮

▼材料 (2人分)

鶏もも肉	100g
ピーマン	30g
茄子	150g
塩	大さじ 1
シメジ	50g
ショウガ	1かけ
サラダ油	大さじ 1/2
酒	大さじ 1
みりん	大さじ 1
水	100cc
黒砂糖 (粉末)	大さじ 1
塩昆布	10g
濃口醤油	小さじ 1



牛肉のワイン煮
～黒砂糖を使って～

▼材料 (2人分)

牛肉薄切り	160g
ショウガ	1かけ
赤ワイン	100cc
黒砂糖	20g
濃口しょうゆ	大さじ 1



お花みたい*
ふっくら黒砂糖蒸しパン

▼材料 (5個分)

薄力粉	100g
黒糖 (粉末)	60g
牛乳	90cc
サラダ油	大さじ 1 と 1/2
ベーキングパウダー	小さじ 1



トロトロ黒砂糖プリンと
ふるふる黒砂糖ゼリーの
二段重ね

▼材料 (5個分)

＜黒砂糖プリン＞	
粉ゼラチン	5g
水 (ゼラチン用)	25cc
黒砂糖 (粉末)	60g
豆乳	300cc
生クリーム	100cc
バニラエッセンス	適量
＜黒砂糖ゼリー＞	
粉ゼラチン	5g
水 (ゼラチン用)	25cc
黒砂糖 (粉末)	90g
水	300cc

黒糖を使った
おいしい料理
を紹介します

黒砂糖 (黒糖) の
こんなところがオススメ♪

黒砂糖はカルシウム、カリウム、鉄などのミネラルを多く含んでいます。ビタミンB1、B2など代謝に関わるビタミンも含まれており、砂糖類の中でもカロリーは低い方です。

上白糖とは違う風味があり、味に深みを出す特徴があるため、肉のうまみを引き出したり、優しい甘みを感じたりすることができます。たまには黒砂糖を使っていつもと違う風味を楽しむのもいいですね。

あやビーの
栄養ワンポイント



健康推進課
管理栄養士
はらたあやこ
原田綾子



1.2.5. 物産フェアは
毎回大勢の来場者で
にぎわう 3. 龍郷町
の酒造工場にある黒
糖焼酎の巨大模型
4. 友好都市協定締結
記念ボトル 6. 大島
紬の即売会も開催

物産

で育む、まちの

交流

菊池市第3セクターでは、龍郷町との交流が始まった当初から
特産品フェアを開催するなど物産の交流を続けています。
友好都市締結を機に、特産品の魅力について話を聞きました。

物産の交流は、平成19年
郷町には商談などで6回行き
ました。回を重ねるごとに品
質が上がって、当初は30品目程
度だった取引が、現在は50品
目以上に増えました。メイン
の商品は黒砂糖と黒糖焼酎
で、菊池でもだんだん知名度
が浸透してきたと思います。
龍郷町は黒砂糖の本場。現
地で育ったものをそのまま販
売しますので、味が濃いです
ね。あと果物も良いです。パッ
シヨンプルーツやマンゴーな
ど、こちらでは暖房をしないと
作れません。それが自然に
できて見栄えが良く糖度も高
い。とにかく自然がそのま
ま詰まっています。味が濃いです。
入荷してもすぐなくなります
よ。地元で育ち地元で加工し
て消費者の皆さんに届けられ
る。これが一番だと思います。
商談では商品のネーミング
など、こちらから提案するこ
ともあります。たとえば西郷
にゆかりのある名前を使って
「愛加那マンゴー」とか。友
好都市の価値は、そういった
交流のなかにもあるのではな
いでしょうか。
菊池にも龍郷にもそれぞれ
良いところがたくさんありま
す。お互いのまちの良さを知
るためにも、物の交流と一緒
に人の交流も広がっていいけ
ばいいですね。

交流のなかに友好都市の価値がある

Interview



Koichiro Kono

菊池市第3セクター連絡協議会
会長の
河野孝一郎



友好の種 咲く花は笑顔

龍郷町には、「種おろし」という伝統行事があります。新しい種をまくことができたことを祝って翌年の豊作を祈願し、一年間の締めくくりとして各家庭を踊り浄め、繁栄を祈る行事です。そこで私たちを待っていたのは、「笑顔」という最上級のおもてなしでした。

種おろし踊り

「サーッサーー！」
車を降りた途端、大きな掛け声が耳に入ります。案内された場所は、白壁がまぶしい新築の家。玄関先で一本の鉢巻を手渡されるとすぐ、家中に案内されました。
そこにあったのは所狭しと並べられたごちそうの数々。どれから手を付けようかと迷っていると、「もうすぐ踊りが始まるよ」と急かす声。三線とチジン（太鼓）の音色に誘われて庭に出ると、辺りはすでに祭り一色。大勢の住民たちが輪になり、唄声に合わせて踊っていました。

以前は各家々を回り餅を集めながら、食べて飲んで夜通し踊り明かしていたそうです。現在は新築の家などを中心に、新築祝いと厄落としを兼ねて数軒を回るというかたちが多くなっています。
迎えた家では料理や飲み物が振る舞われ、老若男女が夜遅くまで踊り続けます。踊りの合間には、各世帯や参加者

からの「ハナ」（寄付金）がお披露目されます。ハナは区の活動費などに充てられるので、別に区費として集金することはないとのこと。ハナのお披露目があると、お返しのための踊りが始まります。

受け継がれる地域の絆

「好きなように踊ればいい」輪の中に優しく迎えられる、見よう見まねで踊ります。これがなかなか難しい。でも面白い。少しずつ慣れてくると「うまいもんだね」と声を掛けられ、楽しくなってきた踊ります。時が経つにつれ、だんだんチジンのリズムが速くなり三線の音色も激しさを増していきます。徐々に会場が盛り上がり、住民たちの踊りも熱を帯びてきます。

子どもたちも大人と一緒に夜遅くまで踊ります。「種おろし」は子どものころからの楽しみの一つ。みんなと顔合わせできるし、なくてはならない行事と住民は話します。菊池市から訪れた合志和洋さ

広がる笑顔は友好の花

「一緒に踊れば皆友達」住民の言葉が耳に残ります。踊り疲れて休んでいると、「喉が渴いただろう」「お腹は減ってないかい」と声をかけてくれます。まるで昔から知り合いだったかのように、誰もが笑顔であたたかい。その懐かしい感覚は以前、菊池市で感じたものと同じでした。海を隔てたまちで古里を思い出し、なんだかうれしくなってきました。

交流は相手を知ることから始まります。相手を知れば自分を見直すこともできます。それもまた友好都市の価値ではないでしょうか。さあ、種はまかれました。菊池市と龍郷町。お互いのまちに笑顔の花が咲き誇るよう、みんなで大切に育んでいきましょう。

特集 その名は— 龍郷町 終